

2025 年度

国際政治経済学部 総合型選抜Ⅲ期(課題解決型)入試

出題の意図・解答

### 出題の意図

人口減少と少子高齢化は、身近であると同時に、日本の経済社会のすべての分野に大きな影響を及ぼす問題である。本問では、少子化の現状や原因、さらには少子化への対応策について、様々なデータを用いて検討する。

本学教員による模擬講義や課題に対して主体的・能動的に取り組み、論理的な思考力・課題解決力を備え、自分自身の考えをまとめて表現できる能力をどの程度身につけているかを把握、確認することを意図とした。

### 解答

[ 確認テスト ]

問 1: 2010 年代

問 2: 1970 年代

問 3: 2010 年は 2000 年と比べて母となる女性の人口が減少したから。

問 4: ① 0.6      ② 60

問 5: (1)1990 年代      (2)2040 年代

問 6: 未婚男性の年収は既婚男性よりも低い傾向がある。

問 7: エ

[ 課題解決レポート ]

(解答例)

一人の女性が産む子どもの数である合計特殊出生率は、1970年代半ばから長期的に人口を維持できる 2.07を下回っており、2023年に1.2にまで低下した。この結果、総人口は2010年頃から低下に転じ、人口構成の高齢化が進んでいる。

現在の少子化には若者の未婚化が大きく関わっている。結婚や子供を持つことを希望しない若者も増えている。その背景には、恋愛をしない若者も増えていること、経済が不安定化する中で、特に男性の場合、所得が低いと結婚しにくいことなどが挙げられる。

人口構成が高齢化するなかで、年金、医療、介護等の社会保障制度の持続可能性が懸念されるようになってきている。

現在少子化対策として行われている子育て支援策はもちろん重要であるが、若者が家族形成に踏み出しやすくするためには、若者が将来に希望をもてるような社会を実現すること、そして、若者の雇用環境を改善することなどが必要であると考えられる。